

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

## 社会と共に

社会と共に進む科学技術イノベーションの

あり方とは、いかなるものか。今、科学技術は国境を越え、地球と人類の活動に多大な変化を及ぼすに至っている。2000年を迎えるところからの若きアンブレプレナーシップは、20年を経て巨大なサイバー空間を形成し、産業だけでなく実生活へ浸透を続ける。世界のうねりのなかで日本は常に難しいかじ取りを迫られるが、現代の責任と次世代の

①

を中立的な立場に立つて行く機関としてJSTに設置されている。わが国および人類社会の持続的発展のため、科学技術が現代のさまざまな問題と向き合う先導役となるシンクタンクとなることを目指している。

## 日本の研究力

トランスディシiplinaryな融合領域を生み出す。しかし融合を起すには時間がかかる。そうすること、チャレンジングで

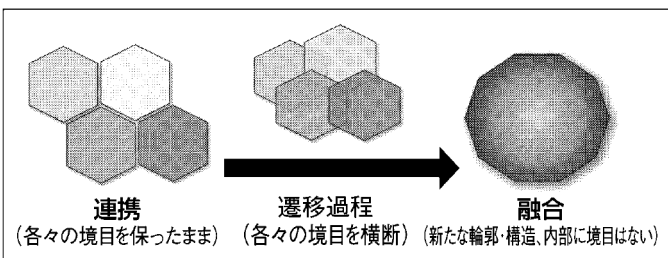
03年の設立以来、6野の連携により新たな融合領域を生み出す。しかし融合を起すには時間がかかる。そうすること、チャレンジングで

研究開発戦略センター(CRDS)は、国の科学技術イノベーション政策に関する俯瞰的な調査・分析、提案

# 学問分野 “新しいかたち” 創出



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー総括ユニットリーダー 永野 智己  
学習院大学理学部化学科卒、グロービス経営大学院経営学修士(MBA)。主にナノテクノロジー・材料・デバイス分野の戦略立案を行った。JST研究監、文部科学省技術参与を兼任。



とても難しい。日本の研究力は大丈夫か、との懸念が叫ば

れるが、研究力の語が意味することは曖昧で、研究の「力」を数値として簡単に測ることはできない。たしかに競争には競争が欠かれないが、同時に研究は文化に根差したものである。研究力とは、研究の文化資本たる面との関係にその本質があるように思う。これからCRDSのフェローたちが毎週、さまざまな領域で起る科学技術の潮流をお届けする。新たなイノベーションは、私たちの文化に何をもたらすのか。最新の研究開発動向のみならず、そんなことを考えるきっかけにもなれば幸いです。

(金曜日掲載)